

外国語

外国語における令和4年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

【成果】

- ・学習効果測定のアルファベットの読み書きでは、概ね目標値を上回ることができた。
- ・外国語専科教員やALTがクラスルームイングリッシュ等、積極的に英語を使い、インプットを増やしたことや視聴覚教材を用いて授業をすすめたことで、学習効果測定による単語の意味理解では、目標値を上回るものが多かった。

【課題】

- ・アルファベットは書けるようになっているが、学習効果測定では、英作文を書く力が目標値を大きく下回っていた。普段の授業の様子として、ALTからの問いかけに対して積極的に応えようとする児童が少ないことから、外国語に対して主体的に学習しようという態度の育成が重要になると考える。

外国語における改善策

① 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な知識・技能を身に付ける。

- ・ICT機器の音声やALTの話聞くことを通して、十分に音声を聞かせて、良質な英語をインプットする場面を増やす。
- ・単語や句を罫線上に正しく書けるように指導する。

| 中学年 | 高学年 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の音声やALTの話聞き取り、内容をワークシートやテキストに書いたり読んだりして、内容を聞き取る力を身に付ける活動を取り入れる。 ・話型を元にした指導を、読むことや書くことにも活用する。話型を元に、単語を変えて表現の仕方を学んでいき、決まったフレーズを覚えて、読んだり書いたりする指導を行う。 ・3年生で学習したローマ字を基に、アルファベットの大文字・小文字で自分の名前を書けるように、復習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用して、十分に音声を聞くことでインプットする場面を増やし、そこで学習した単語について、読んだり書いたりする。 ・ペア活動やグループ活動で、聞き取った内容を話し合うことで、聞き取る力を身に付ける活動を取り入れる。 ・既習語句や表現を繰り返し活用させ、身に付けられるよう指導する。 ・既習のアルファベットについても、罫線上のどの場所を書くか繰り返し復習させ、学習した語句について、見ながら写して書く活動を取り入れていく。 ・学習の振り返りをさせ、難しかったと感じたことについては、次の時間にもう一度復習する活動を取り入れる。 |

② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

- ・簡単な事柄について、ペア活動やグループ活動を通して、考えや気持ちを伝え合う活動を設定する。
- ・全体の前で、自分の考えや気持ちを、スピーチや発表する活動を取り入れる。

| 中学年 | 高学年 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・話型を示して、単語を変えていけば、いろいろな表現に活用できることを指導し、考えや気持ちを伝える力を身に付ける活動を取り入れる。 ・話型を元にして、全体の前でも、スピーチや発表する場を作る。ペア活動やグループ活動で徐々に慣れさせていき、クラス全体の前でも、外国語で考えや気持ちを表現できるように段階的に指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話型を示すことで、聞き取る際にも、キーワードに耳を傾けて聞き取り、伝えている内容を理解しやすくなるように工夫する。 ・ペア活動やグループ活動を通して、外国語で自分の考えや気持ちをお互いに交流できる場を、引き続き作っていき、指導していく。 |

③ 他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

- ・まずは教師やICT機器の音声を十分に聞かせ、インプットを増やし、活動に参加できるようにする。
- ・中休みの英語カフェを活用し、英語のゲームを通して、コミュニケーションを図れるようにする。

| 中学年 | 高学年 |
|--|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって友達ともコミュニケーションが取れるように、教師と子ども1対1でやり取りができる場面を作る。 ・語句を覚えやすくするために、歌やリズム、ジェスチャーを取り入れる。 ・英語を使ったゲーム的活動を取り入れる。 | |